

「いのち」をいただく

コミだけで全国に一人の愛読者を持つ新聞に「みやざき中央新聞」というのがあります。

「新聞」と名前がついていますが、一般紙のように政治、経済、事件、事故といったニュースは掲載されておらず、色んな講演会を取材して、感動した話や心温まる話、面白かった話、ためになる話などを紹介した新聞で、今風に言えばミニコミ紙といったところでしょうか。

その新聞の第一面に、編集長（水谷もりひと氏）執筆による社説が毎号掲載されております。書き続けて20年になるその社説の中から、今回特に印象深い社説を41篇選んで、その名も『日本一心を揺るがす新聞の社説』と題して、昨年11月、ごま書房新社より出版されました。

出版されるや、大きな反響を呼びたちまち増刷され、この五月には六刷目が発行されました。さらに読者の強い要望に応じて、現在、第二弾（43編の社説が収録）が刊行されました。

早速、注目の社説を一編ご紹介したいと思います。

一心をこめて

「いただきます」「ごちそうさま」一

食肉加工センターの坂本さんの職場では毎日たくさんの牛が殺され、その肉が市場に卸されている。牛を殺すとき、牛と目が合う。そのたびに坂本さんは、「いつかこの仕事をやめよう」と思っていた。

ある日の夕方、牛を乗せた軽トラックがセンターにやってきた。しかし、いつまで経っても荷台から牛が降りてこない。

坂本さんは不思議に思って覗いてみると、10歳くらいの女の子が、牛のお腹をさすりながら何か話しかけている。その声が聞こえてきた。

「みいちゃん、ごめんね。みいちゃん、ごめんね……」

坂本さんは思った、「見なきゃよかった」

女の子のおじいちゃんが坂本さんに頭を下げた。

「みいちゃんはこの子と一緒に育てました。だけん、ずっとうちに置いとくつもりでした。ばってん、みいちゃんば売らんと、お正月が来んとです。明日はよろしくお願いします…」

「もうできん。もうこの仕事はやめよう」と思った坂本さん、明日の仕事を休むことにした。

家に帰ってから、そのことを小学生の息子のしのぶ君に話した。しのぶ君はじっと聞いていた。一緒にお風呂に入ったとき、しのぶ君は父親に言った。「やっぱりお父さんがしてやってよ。心の無か人がしたら牛が苦しむけん」

しかし坂本さんは休むと決めていた。

翌日、学校に行く前に、しのぶ君はもう一度言った。「お父さん、今日は行かなんよ！（行かないといけないよ）」

坂本さんの心が揺れた。そしてしづしづ仕事場へと車を走らせた。

牛舎に入った。坂本さんを見ると、他の牛と同じようにみいちゃんも角を下げて威嚇するポーズをとった。

「みいちゃん、ごめんよう。みいちゃんが肉にならんとみんなが困るけん。ごめんよう」と言うと、みいちゃんは坂本さんに首をこすり付けてきた。

殺すとき、動いて急所をはずすと牛は苦しむ。坂本さんが「じっとしとけよ、じっとしとけよ」と言うと、みいちゃんは動かなくなった。次の瞬間、みいちゃん目から大きな涙がこぼれ落ちた。牛の涙を坂本さんは初めて見た。

（『いのちをいただく』／西日本新聞社刊より）

坂本さんの話を聞いて感動した内田美智子さん（内田産婦人科助産婦、「いのち」をテーマに全国で講演活動を展開中）は、坂本さんの了解を得て、この話を『いのちをいただく』（西日本新聞社刊）というタイトルの絵本にされました。

その絵本のあとがきに、内田さんはこう書いています。

「私たちは奪われた命の意味も考えず、毎日肉を食べています。自分で直接手を汚すこともなく、坂本さんのような方々の悲しみも苦しみも知らず、肉を食べています。『いただきます』『ごちそうさま』も言わずにご飯を食べることは私たちには許されないことです。食べ残すなんてもってのほかです……」

そう、私たちはいのちを食べていた。今日いただくいのちに……合掌。

以上のような社説です。

題名の通り、まことに心揺るがされる社説です。

特に解説は要らないと思いますが、私たちが食事の時に唱える「いただきます」は、単なるエチケットではなく、「あなたのその尊い命をいただきます」ということなのです。そこには、「あなたの命をありがとう」という感謝の思いと同時に、「あなたの命を奪ってごめんなさい」という慚愧の思いがなければならないと思います。

目の前の食事には、坂本さんや牛のみいちゃんなど、まことに多くのおかげと恵みがあることに気付かせていただき、感謝と慚愧の思いを込めて「いただきます」「ごちそうさま」と唱えていきたいものです。

そうしてその恵みに応えていく人生（ご恩報謝の人生）が実現できた時、初めて犠牲になった多くの命が救われたと言えるのです。

一昨年、宗門では、「食事のことば」が、新しく制定されました。（*下記参照）

これまでの「食事のことば」を少し改訂しています。多くのいのちをいただいているということと、その恵みに積極的に応えていく人生を歩むということを前向きに打ち出した言葉になっています。

是非、ご家族そろって唱えていただきたいと思います。

◆食事のことば

[食前のことば]

●多くのいのちと、みなさまのおかげに より、このごちそうをめぐまれました。
(一同) 深くご恩をよろこび、ありがたく いただきます。

[食後のことば]

●尊いおめぐみをおいしくいただき、 ますますご恩報謝につとめます。
(一同) おかげで、ごちそうさまでした。

平成 23 年 7 月 「光明寺だより 73 号」より